

重要研究開発課題抽出の視点に対する主な意見

- 他省庁、または、他の分野別の委員会で実施すべきことと安全・安心科学委員会で実施すべきことをどう仕分けるかという切り口を視点に入れることが重要と思う。記載されている3つの視点で、仕分けるのは難しいのではないか。
- 技術の「安全」と「危険」であれば、定量的に評価して、安全度、危険度の判定ができ、対策ができる。人の場合、今過剰に不安になっている人が、一年前は不安ではなかったといったように揺れる。そこを揺れすぎないようにするところ、教育や情報提示、訓練のように人を相手にした部分について、文部科学省で出来ることがあるのではないか。
- 時間的な、いわゆるタイムラグも含めて「安心」を評価するというシステムがあると上手く対応できる部分があるのではないか。
- （不安が解消されるプロセスの）モデルに基づいて安心対策を設計していくことが大事だと思うが、このようなことは、「視点」の中の「技術開発のみならず社会的対応を包含する」というところに集約はできず、もう少し広げていく必要があると思う。
- （この委員会で何をするかについて）、1つは省横断的なところであり、もう1つは、基礎研究にかなり立ち戻ったところである。
- 教育現場について取り上げると文部科学省らしく取り組めるのではないか。
- 社会科学、人文科学も取り込めるのは文部科学省ならではのと思うので、そういう新しい取組ができればと思っている。
- 地域によって人々の反応の仕方や不安の持ち方が異なっており、地域ごとに別のロジックと別の習慣で安心が確保されているので、そういう部分は地域差を考え、学校や地域と連携して、地域に吸収されやすい形で「安心」を語る、「安心」を伝える必要がある。
- 「安全・安心」というと、技術的にも分かりやすい「安全」を先にやっていく傾向があるが、「安心」という問題を科学することは非常に大事なことであるため、人文科学の観点から「安心」というものについての研究、それに対する施策というものを深めていくといふように、具体的に掘り下げることを考えていきたいと思う。
- この委員会でニッチなものを探す、「安全・安心科学技術委員会」をニッチ委員会にするのはやめたほうがいいと思う。むしろ、様々な省庁や様々な委員会で扱って

いる重要なテーマである「安全・安心」の中にも不足している部分があり、その不足部分をここでカバーするというストーリーにすべきである。

成果を使ってもらおうというところにフォーカスを当て過ぎると、他の省庁とバッティングして、他があまりやっていないことしか残らなくなるのではないか。

- 研究者は人と違うことをすることに価値を見出すため、国中が一緒になって何か一つのものを作るとき、科学技術を追求すると実現しないのではないかと思う。まさしく、資料中の「科学技術のみならず」ということなのかもしれないが、社会的対応を含まないものは意味はないとまで言うと言い過ぎだが、社会的対応とのバランスを考えていかないといけないと思う。
- カスタマーという考えからすれば、文部科学省をカスタマーに絞るのも一つ考え方だと思う。例えば、学校や生徒というところの安全・安心ということに絞ってやれば、逆にその技術が開発できた段階で、そこだけではなく、他のところにも使えるという考え方でもよいのではないか。
- 安全・安心を国のレベルで横断的・俯瞰的に考えようというのがこの委員会の目的であり、やはり、全部調べてみて、その中で国民にとって足りないものは何かを「政策」として提言することが求められているのではないか。
- 課題を選択するときの基準として、人文・社会科学の知見の動員がその課題解決に極めて重要なものというような切り出し方をすることで、他の省庁、他の委員会でやっていることと差別化ができるのではないか。